北海道地学協働アワード2023
全道の８校が受賞

令和6年2月16日(金)14:00～

HOKKAIDO BOARD OF EDUCATION

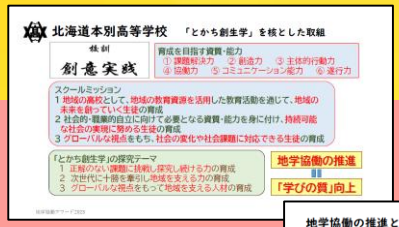
公立の高等学校と特別支援学校など全道からエントリーした15校のうち、グランプリ、準グランプリ、特別賞が決定しました。

グランプリ ▸北海道本別高等学校

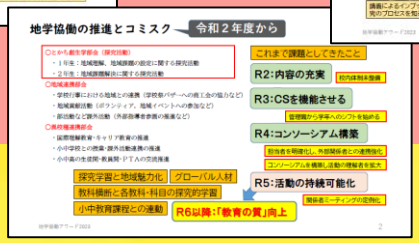
コミュニティ・スクールとコンソーシアムが機能しており、地域と学校が一体となった取組により素晴らしい成果が見られています。

本別高校は、地域と学校が連携・協働して実践されている「とかち創生学」を核として、さまざまな教育活動が展開されており、スクール・ミッションで掲げている「地域の未来を創っていく生徒の育成」に向けての着実な取組など、全道における地学協働の模範となる学校であるため、グランプリに選ばれました。

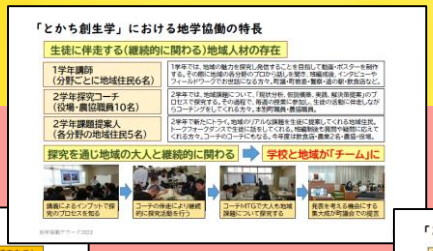
本別高校資料⇒



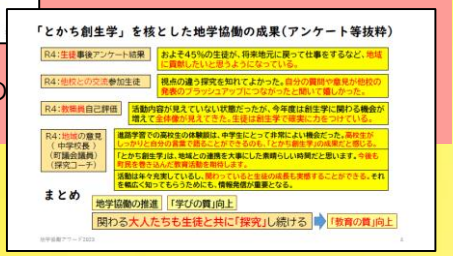
スライド１
スクールミッション



スライド２
地学協働連携体制



スライド３
地域課題を解決するための多様な活動



スライド４
地域や生徒の変容・まとめ

準グランプリ ▸北海道津別高等学校

「つべつ学協働体制」を構築し、行政、教育機関、NPO法人、地域企業などと連携が図られており、地元への就職率の増加など着実に成果が現れています。また、全教職員の地学協働に対する意識の高まりが見られるとともに、生徒の主体性の高まりも感じられ、全道における地学協働の理想的な取組を実践しているため準グランプリに選ばれました。

津別高校資料⇒

スライド１
スクールミッション

スライド２
地学協働連携体制

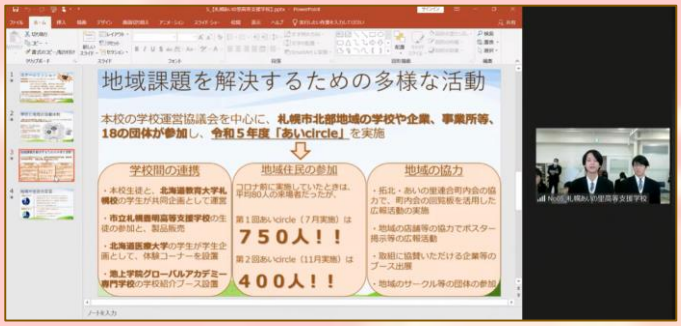
スライド３
地域課題を解決するための多様な活動

スライド４
地域や生徒の変容・まとめ

北海道地学協働アワード2023　特別賞

◆地域の特色を活かした特徴的な活動を行っている６校が特別賞に選ばれました。

【地学連携活動賞】
▸北海道札幌あいの里高等支援学校

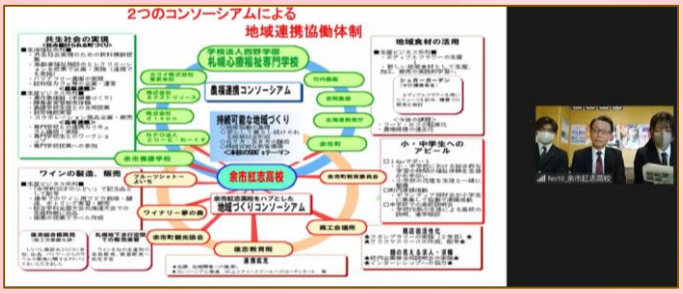


↑学校運営協議会を中心として様々な機関と連携を図り、18の団体が参加するなど地学協働による地域の活性化に資する活動を実践しています。

【地域連携開発賞】
▸北海道岩見沢農業高等学校

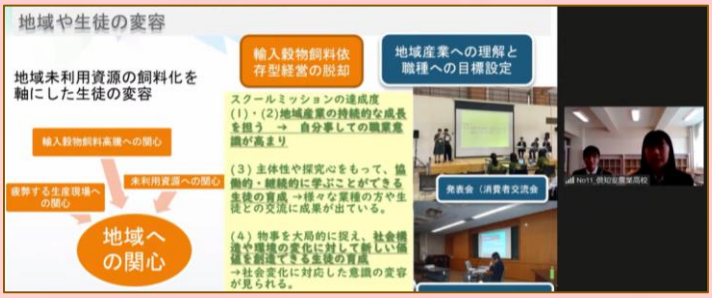
↑地域の企業の賛同を得て、コラボレーションをした地域課題を解決するための様々な活動が展開されており、SDGｓの観点も取り入れられています。

【農福連携推進賞】
▸北海道余市紅志高等学校



↑「共生社会の実現」をテーマに余市紅志高校をハブとした地域づくりコンソーシアムと農福連携コンソーシアムの２者がうまく連携されています。

【地域産業活性賞】
▸北海道倶知安農業高等学校



↑まちの地域課題を具体的な形で学校教育に取り入れて、高校生の力によって、地域未利用資源を活用するなど、地域の活性化が図られています。

【地域連携活性賞】
▸北海道帯広南商業高等学校

↑様々な地域団体との連携・協働によって、生徒の地域貢献の意識の高まりが見られており、地域との連携が活性化しています。

【地域未来創造賞】
▸北海道帯広三条高等学校

↑地域探究を基盤とした進路実現を目指すために、「探究コンソーシアム」が整備されるなど、持続可能な地学協働体制の構築が期待されます。

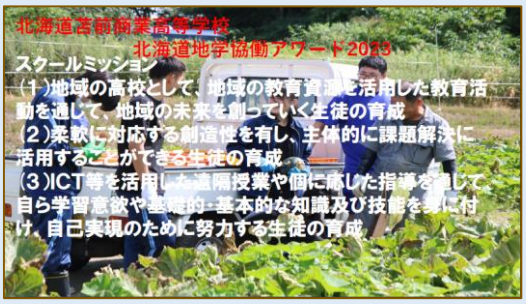
北海道地学協働アワード2023　エントリー校

◆エントリーしたどの学校も、地域の良さを活かした様々な活動を展開しています。

▸北海道幌加内高等学校

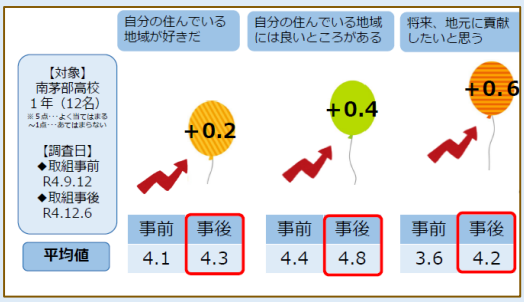
←幌加内町の伝統文化の伝承など「高校魅力化コーディネーター」と連携しながら地域創成に寄与しています。

▸北海道苫前商業高等学校



←自転車ツーリングなど地域と学校が一体となった活動に取り組んでおり、学校の魅力を発信しています。

▸北海道南茅部高等学校



←縄文をベースとした関係機関等の連携がされており、特徴的な取組が展開されています。

▸北海道美深高等養護学校

←CSの導入とともに地学協働に向けた教職員の意識が高まっており、社会貢献活動をされているところが特徴です。

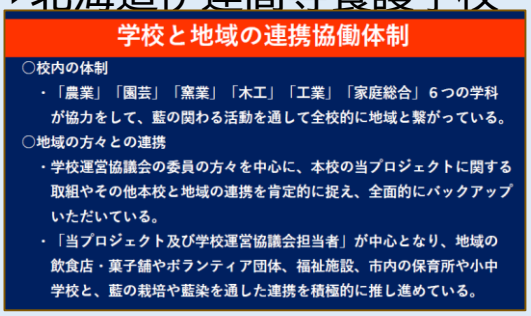
▸北海道枝幸高等学校

←地域と学校を繋ぐ地域学校協働活動が展開されており、地域を支える人材育成が充実してきています。

▸北海道浦河高等学校

←高校生ならではの視点を活かし、地域課題を解決するための様々な活動を展開しています。

▸北海道伊達高等養護学校



←地域の文化・産業の「藍」を共通テーマとした学びと地域のつながりの土台を築いています。

↓本アワードの発表や審査の様子はアーカイブで社会教育課YouTubeチャンネルで視聴できるほか、ホームページに資料を掲載しているので、ぜひ御覧ください。

北海道地学協働アワードのホームページ　北海道地学協働アワード